

CALIFORNIA DESIGN LAB.

Portfolio by Yuki Hayashi



林 由起

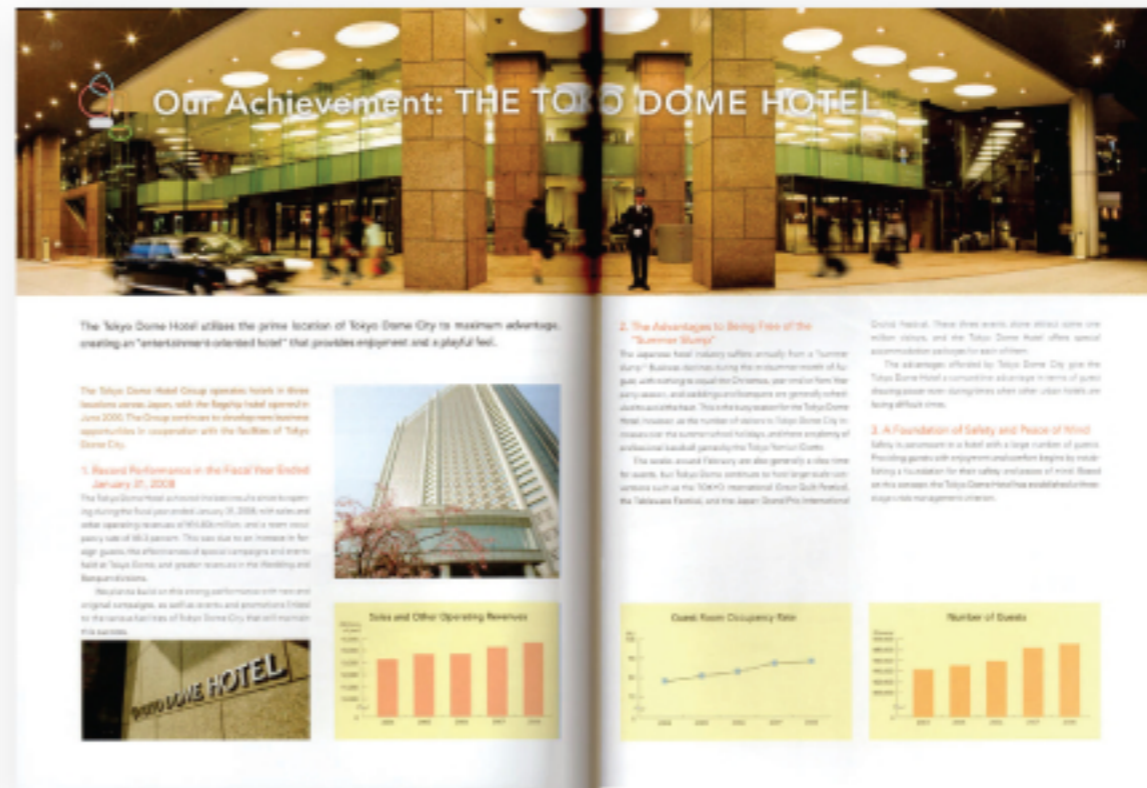
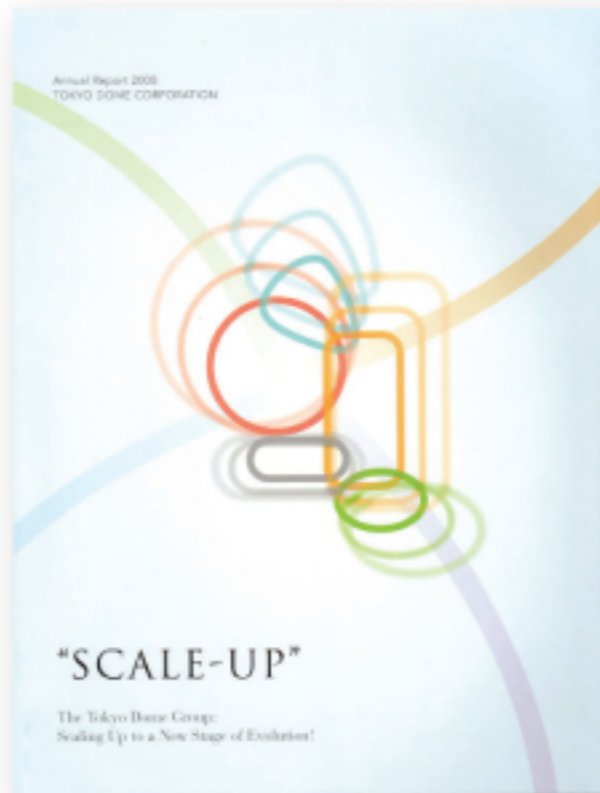
グラフィックデザイナー California Design Lab. 代表

1982年 東京都生まれ

2005年 カリフォルニア州立大学サンディエゴ校 芸術学部グラフィックデザイン学科卒業、その後現地のデザイン事務所で1年働き、帰国。

2008年 再び渡米しカリフォルニア大学サンディエゴ校Extension
マーケティングサーティフィケート取得。

デザイン事務所、IT企業でのデザイン経験を経て2013年夏、
California Design Lab 設立。





トップメッセージ-大鵬薬品のCSRと今後のビジョン
「グローバル・ニッチ・ベンチャー」として、
世界中の人々に貢献できる企業をめざす

世界への大きな一歩

2006年度は、私が社長に就任した2004年以降、最高の業績を挙げることができました。その一つの要因として、世界トップクラスの製薬企業サノフィ・アベンティス（フランス）との、我が国「タイエスワン」の進出契約の締結が挙げられます。すでにこの契約は1999年に国内で発効し、がん専門薬より高い評価を受けています。加筆改良とともに、薬効が顕著な副作用のない薬に、積極的に変更できることが認められ、世界市場での評価も顕著に進んでいました。これを契機的に評価したサノフィアベンティスから、「この薬効をぜひ世界に広めたい」とオファーがあったのです。そして2006年7月3日、われわれは正式に契約を交わしました。当社は経営ビジョンに「グローバル・ニッチ・ベンチャー」を掲げ、世界に貢献しようとしていますが、これは大きな一歩となりました。今後、「タイエスワン」における研究開発をさらに加速し、日本およびアジア諸国では当社が、これ以外の国々もサノフィアベンティスが製造し、強いつながりを持つとともに、グローバル化を推進していきます。

がんがんリーディングカンパニーとしての社会的責任

海外への進出に伴い、当社も世界中の人々に認められるためには、企業として社会的責任を果たしていくことがますます重要となってきます。特に当社が人の生命に直接関わる仕事を営んでいるため、わずかな過失も大きな事故につながる危険性があります。物事を思い通りにしたまま進めようとするのではなく、絶対に避けなければなりません。明確な判断基準をもとに、何か決めることがあれば組織内で十分に検討し、課題を解決してから次のステップに進むことが大切です。

また、がんがんの製造・販売に関わる企業として守らなければならないことに、製剤管理の厳格があります。がんがんには効果を維持できる品質、副作用という負の要素も必ず含まれています。薬品質は、使用法や有効性、安全性など、様々な情報が医師や薬剤師の手中に集約され、患者さんに適正に提供されることによりその真価を発揮します。そのため薬作用情報を正しく開示することは、当然の義務と考えます。

社会的責任を果たすためには、医薬品に関する法律をはじめ、様々なルールに沿って業務を進めなければなりません。そこで当社では、社員一人ひとりがコンプライアンスを正しく理解し実践するために、「大鵬薬品コンプライアンスプログラム2006」という冊子を作成しています。2006年度は、その浸透のため



に全国各地の拠点で説明会を開催しました。結果にあたっては、万が一、誤りに繋がるような可能性があれば、たとえ業績に影響を及ぼすものであっても徹底的な対策をとるよう、非常に厳しい姿勢で臨んでいます。

また、グローバル化をめざす当社にとって、昨今の経済環境は、先送りにはできない重要なテーマであり、決意に達したのはもちろん、様々な環境対策を実施しています。2006年11月には岡山工場および関東支社の岡山大鵬薬品で構成される岡山サイトが、ISO14001の認証を取得しました。これにより、主な生産拠点すべてでISO14001に基づき環境マネジメントシステムのもとで稼働することとなりました。社員と環境について話を聞かすたびに、彼らが自分たちの決意の世代のことも真剣に考えているのが嬉しひとほびわってきます。職人やヤココとの合同、清掃活動など、各自が高い情熱を持って地球環境化を推進し、高品質・リサイクル対策に取り組んでいます。また、社有車のハイブリッド車導入を積極的に進めています。

これからは病状に関する知識を広く社会に広めることも、製薬企業としての大切な使命であると考えています。2006年からは、医療情報の窓口となるメディアの研修を対象にした「オンコロジー（腫瘍専門）メディアセミナー」を開催しています。さらに、患者目線に寄り添った積極的な活動を展開しています。現在、日本国内では、病状で悩んでいる方が300万人以上いるとされています。そこで当社では、病状に関する知識を正しく早くでもらう市民の啓蒙活動を開始し、医師に相談して薬を飲むのが最も有効であることを、啓蒙しています。

社員が家族でつづきついで、責任を共有する社員を大切に

2007年度は、2004年度から取り組んでいる高知拠点「トップ・スタッフ・キャンプ」の「ジャンプ」開始の年に当たります。2006年度に実施される異業体交流に伴い、知識は新しい情報も提供が予想されますが、私を勇気づけてくれる明るい材料は、数多くあります。まずは人材の成長です。当社には、ひとむきに仕事に取り組んでくれる社員が大切に、今回の異業体交流という成長の年でも、これをバネにして大きく成長してくれることとしよう。異業体交流に目を移すと、医薬品を販売するための販路確保として、中国や東南アジアのがん専門薬に対して、正しい知識を持ってもらう活動がスタートします。そして彼らが研鑽の成果です。一総に、製薬企業の研究開発は売上高に対して17%前後が平均とされていますが、当社では2006年



度に20%を超えました。これは、新製品として発売できる医薬品が多くあり、投資した分のリターンが確かなものと予測されるからです。数種類の当社の開発が自然に集まっています。

これからの時代はグローバル化が進み、海外のメダファーマ（大鵬薬品）が決意と目標にやってくることでしょう。しかし、当社は「がん」「アレルギー」「感染症」の3領域に特化して、真に価値があります。その理由は、当社の強みと強み開発力が確実に伸びているからです。それを発揮してまたのが、社員と社員が本気で議論し合い、一度決意したことについては、全員が責任を共有し、行動するという点です。医師の取締役会議でも、医師や薬剤師などに数多く新しい議論が交わされています。このような、日々の業務に対する真剣な姿勢こそが、当社の成長の原動力なのです。私たちが、これからは社員一人ひとりが活躍するから、強固な医薬品の創製に貢献し続け、世界中の人々から信頼される企業をめざします。

Tami Yamamoto
大鵬薬品工業株式会社
代表取締役社長
学術賞 賞



**BRIMMER
BEER BOX**



Greenworks Studio

Logo and stationery design, 2007

AMY Award by American Marketing Association of San Diego, May 2008









